

令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における 北九州市立 中原 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和5年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思えます。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

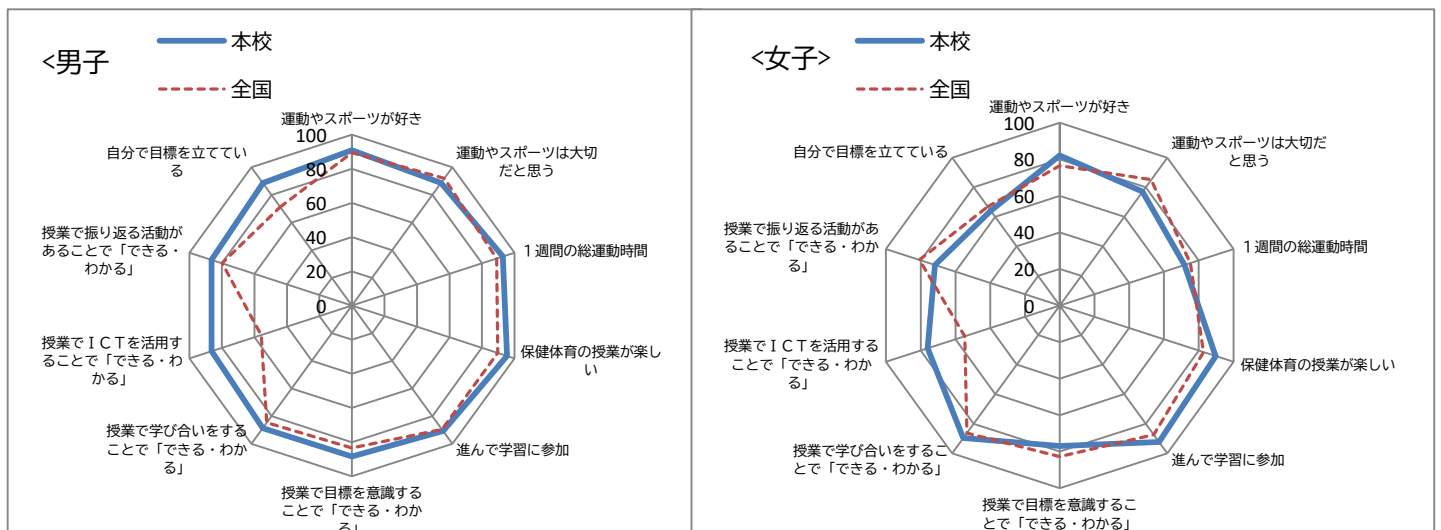
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	29.02	25.82	44.16	51.22	409.02	78.07	8.01	197.02	20.40	41.32
本市	29.72	26.24	46.29	51.95	413.28	80.12	7.86	201.52	20.51	43.46
本校全国平均以上の種目	○	○	○	○		○	○	○	○	○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	23.15	21.62	46.27	45.65	306.26	50.70	8.95	166.34	12.43	47.22
本市	23.64	22.08	47.52	46.35	320.97	51.41	8.86	170.70	12.13	48.65
本校全国平均以上の種目	○	○	○		○	○	○	○		○

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

「運動やスポーツが好き」「保健体育の授業が楽しい」「進んで学習に参加」の値は高いが、「運動やスポーツは大切だと思う」の値が低い。中学生期に運動を行うことの意義や重要性を理解し、自らの生活スタイルに合わせた具体的な目標を立て、その達成のために行動する機会を設定することが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 体育の授業のなかで、準備運動、力強い動きを高める運動(腹筋運動、スクワット等)、動きを持続する能力を高める運動(3分間走)、単元に合わせた補助運動を行っていく。
- 昼休みのボールの貸し出しや体育館開放を引き続き行い、運動の機会を確保する取り組みを行う。
- 学年で行う運動系のクラスマッチや体育大会の取り組みを学級担任を中心に取り組みを行っていく。
- ICTを活用することで「できる・わかる」の値が高くなっているが、さらに多くの場面で活用することができるように工夫を加えていく。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

- 生徒会の体育委員会を中心に生徒が自ら運動を行う取り組みを考え、実践していく。
- 今回の調査結果をHPIに掲載するだけでなく、学校だよりや学年だより、学級通信等を通して保護者に啓発活動を行う。